

# 愛媛県県立学校振興計画（案）

令和4年7月

愛媛県教育委員会

## はじめに

令和4年6月に、愛媛県県立学校振興計画検討委員会から、少子化に伴う生徒数の減少、情報化、グローバル化の進展などにより、県立高等学校及び県立中等教育学校（以下「県立高校等」という。）を取り巻く環境が大きく変化する中、『生徒にとってよりよい教育環境の実現』を第一義に、県立高校等が社会を支える人材の育成拠点として、さらに地域活性化の核として、その役割を果たすため、「愛媛県県立学校振興計画策定の指針について（報告書）」が提出された。

この報告を受けて、愛媛県教育委員会では、具体的な県立高校等の振興計画の策定に向けて検討を行い、以下の結論に達した。

## 1 県立高校等を取り巻く課題

### (1) 生徒数の減少と学校の小規模化

本県の全日制県立高校等の在籍生徒数は、中学校卒業生数の減少に伴い、平成2年度の約5万3千人から令和3年度の約2万4千人へと、約3万人減少している（中等教育学校前期課程を除く。）。一方で、本県の全日制県立高校等の数は、57校から55校と2校しか減少しておらず、結果として、学校の小規模化が著しく進行している。

小規模校が有するメリットや地域活性化の核としての役割等に留意しつつも、生徒が多く仲間と切磋琢磨することで、より高い目標を達成できる充実した教育環境を実現するため、各地域内に一定規模以上の生徒数を擁する学校を配置する必要があり、学校の統合を視野に入れた、再編整備を進める必要がある。

### (2) 社会の変化と生徒の多様化

グローバル化や情報化が急速に進み、産業界のあらゆる分野において業種の枠を越えた競争が行われており、産業構造や就業構造が急激に変化している。そのため、学校には、子どもたちが各教科で学んだ見方・考え方を基礎としながら、地域と連携しつつ、社会の課題や解決方法等について、「自ら考える姿勢」や、広い視野を持って何事にも主体的、協働的に取り組み、人生を「自ら切り拓いていける力」を備えた人材の育成が期待されている。

また、中学校卒業生が高等学校等に進学する割合が99%を超えている状況の下、本県の県立高校等でも、様々な進路希望、能力・適性、興味・関心を持つ生徒が在籍している。そのため、個別最適な学びの推進を軸として、生徒のニーズに合わせた多彩な学びの形態を提供できる体制づくりを進めるとともに、課程や学科等の改編等により、魅力ある学校づくりを進める必要がある。

## 2 振興計画の内容

### (1) 再編整備基準

愛媛県県立学校振興計画検討委員会から提出された報告書の中で示されている再編整備基準（p.20 **別紙** 参照）のとおりとする。

### (2) 学校魅力化の在り方

#### ア 職業系学科の魅力化

地域経済の振興に資する産業人材の育成のため、既存の異なる大学科（農業科、工業科、商業科等）を1校に集約した「産業科学高校」を西条市に設置し、職業横断的な学びを推進する。

また、生徒が入学後に自己の適性等を見て学科選択ができるよう、現行の「くくり募集」に準じた入学者選抜制度の導入について、職業系学科を設置する県立高校

等において検討する。

#### イ 普通系学科の魅力化

地域のニーズや生徒の実態を踏まえた特色あるコースを各校に設置するとともに、国の普通科改革の方針を注視しながら、普通科内の新学科の設置について検討する。その際、国の「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」に指定された、三崎高校での普通科改革の研究の成果も参考にする。

#### ウ 進学指導の強化

「進学指導強化モデル校」を設置し、高い進学目標を持った生徒が地域で学ぶことができる体制を整える。モデル校については、学校間の適度な競争関係を維持するため、各地域の実情や将来像等を踏まえながら数年ごとに検討し、県の学力向上関係事業において指定する。

#### エ 総合学科

県立高校等における総合学科の特色や成果を踏まえ、これまでの3校から6校へ拡充し、地域のニーズや生徒の実態を踏まえた特色ある系列を設置するとともに、より一層充実した進学指導を行う系列を新たに設置する。

#### オ 中等教育学校

これまでの取組の成果等を踏まえ、今治東中等教育学校にスポーツコース、松山西中等教育学校に国際コースを設置するなど、更なる魅力化を図る。

一方で、中等教育学校の設置から20年近くが経過し、取り巻く環境が大きく変化している中で、宇和島・南宇和地区の児童・生徒数の大幅な減少や地域協議会での意見等を踏まえた検討を行った結果、宇和島南中等教育学校を募集停止とし、新たに宇和島南高校（仮称）を設置する。

#### カ 定時制課程・通信制課程

全日制課程の北条高校を、昼間二部定時制と通信制の課程を併置した愛媛風早高校（仮称）に改編するとともに、小規模校等への授業配信拠点としてのセンター機能を充実させる。

#### キ 専攻科

水産科の専攻科については維持する。なお、水産科以外の専攻科についても、学校及び地域からの要望があった場合は、設置の可能性について検討する。

### 3 振興計画の状況に応じた検討

振興計画については、今後の中学生の進路状況や地域の状況、社会状況の変化などを踏まえ、適宜、検討を加える。

### 4 振興計画の実施

振興計画の実施のため、統合等の対象となった県立高校等のまとめりごとに、市町行政や地域住民などを含めた準備委員会を設置し、具体的な準備を進める。

### 5 振興計画の期間

振興計画の期間は、令和5年度から令和14年度までの10年間とし、前期計画（令和5年度～令和9年度）と、後期計画（令和10年度～令和14年度）に分けて策定する。

前期計画については、その内容を、具体的に、地域ごとに示す。後期計画については、その方向性を、大まかに、地域ごとに示す。

## 6 各地域における振興計画

### (1) 四国中央地区

#### ○ 現状と課題

全日制課程の県立高等学校は3校設置されており、その内訳は普通科単独校が2校、併置校が1校となっている。過去5年間の平均志願倍率は0.84倍であり、全ての学校において、定員割れの状態が続いている。

#### ○ 前期計画の内容

令和9年度までの生徒数については、全体として大きな変動はなく、一時的には増加する年もあること、また、過去5年間に2学級の減を行っていることから、適度な競争倍率を維持できると見込まれるため、学級減は行わず、現状を維持する。

- ・ 三島高校については、商業科内に情報マネジメント類型を設置（情報デザイン類型を改編）して、ICT活用能力の育成強化を図る。

学校名	学科	コース ・系列	R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
			学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員
川之江	普通		5	200	5	200	5	200	5	200	5	200
三島	普通		6	240	6	240	6	240	6	240	6	240
	商業	商業 情報マネジメント (R7 設置)	1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
土居	普通		3	120	3	120	3	120	3	120	3	120
地区計			15	600	15	600	15	600	15	600	15	600

※学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。

※設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

#### ○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、学級減を検討する。

## (2) 新居浜地区

### ○ 現状と課題

全日制課程の県立高等学校は5校設置されており、その内訳は普通科単独校が2校、専門学科単独校が2校、総合学科単独校が1校となっている。過去5年間の平均志願倍率は0.90倍であり、学校・学科によっては、定員割れの状態が続いている。

### ○ 前期計画の内容

令和9年度までの生徒数については、大きな変動はないが、定員割れの状態を改善し、適度な競争倍率を維持するため、3学級の減を行う。

- ・ 新居浜東高校については、普通科内のコースである健康スポーツコースを発展改編し、健康スポーツ科を設置して、中学生のニーズや地域の声に応える。

学校名	学科	R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
		学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員
新居浜東	普通	7	280	6	240	5	200	5	200	5	200
	健康スポーツ (R7 設置)					1	40	1	40	1	40
新居浜西	普通	7	280	7	280	7	280	7	280	6	240
新居浜南	総合	3	120	3	120	3	120	3	120	3	120
新居浜工業	工業	5	200	5	200	5	200	5	200	4	160
新居浜商業	商業	4	160	4	160	4	160	4	160	4	160
地区計		2 6	1,040	2 5	1,000	2 5	1,000	2 5	1,000	2 3	920

※学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。

※設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

### ○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、地区内での統合等により、学校数を5校から4校にすることを検討する。

### (3) 西条地区

#### ○ 現状と課題

全日制課程の県立高等学校は5校設置されており、その内訳は併置校が3校、専門学科単独校が2校となっている。過去5年間の平均志願倍率は0.83倍であり、学校・学科によっては、定員割れの状態が続いている。

#### ○ 前期計画の内容

令和9年度までの生徒数については、大きな変動はないが、定員割れの状態を改善し、適度な競争倍率を維持するため、1学級の減を行う。

- ・ 小松高校、東予高校、丹原高校については、定員割れの状態が続いていることから、比較的距離の近いこれらの3校を統合して、新たに2校を設置する。

2校のうち、1校は、普通科をまとめた「周桑高校（仮称）」とし、普通科内に教員養成コースや、地域課題発見・解決型学習に力を入れる社会共創コースを設置するとともに、情報の活用と発信を重視する人材の育成を目指した「理数情報科」を新たに設置して、特色化を図る。校地については、小松高校を活用する。

もう1校は、農業科、工業科、家庭科に商業科を加えた「西条産業科学高校（仮称）」とし、職業横断的学習を通して、広い視野を持った、地域経済の振興に資する産業人材の育成を図る。校地については、東予高校を主として活用するが、農業の実習等では、丹原高校の農場や校舎を活用する。

学校名	学科	コース ・系列	R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
			学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員
西条	普通		5	200	5	200	5	200	5	200	5	200
	国際文理		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
	商業		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
西条農業	農業		3	120	3	120	3	120	3	120	3	120
小松	普通		3	120	3	120	3	120	周桑へ統合			
	家庭		1	40	1	40	1	40	西条産業科学へ統合			
東予	工業		3	120	3	120	3	120	西条産業科学へ統合			
丹原	普通		3	120	3	120	3	120	周桑へ統合			
	農業		1	40	1	40	1	40	西条産業科学へ統合			
周桑 (R8 設置)	普通	文理探究 教員養成 社会共創							3	120	3	120
	理数情報								1	40	1	40
西条産業科学 (R8 設置)	農業								1	40	1	40
	工業								2	80	2	80
	商業								2	80	2	80
	家庭								1	40	1	40
地区計			2 1	840	2 1	840	2 1	840	2 0	800	2 0	800

※学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。

※統合校名、設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

## ○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、学級減を検討する。

#### (4) 今治・越智地区

##### ○ 現状と課題

全日制課程の県立高等学校は7校（うち分校2校）設置されており、その内訳は普通科単独校が4校、専門学科単独校が1校、併置校が2校となっている。過去5年間の平均志願倍率は0.91倍であり、学校・学科によっては、定員割れの状態が続いている。

また、中等教育学校が1校設置されており、定員割れの状態が続いている。

##### ○ 前期計画の内容

令和9年度までの生徒数については、大きな変動はないが、定員割れの状態を改善し、適度な競争倍率を維持するため、4学級の減を行う。

- ・ 今治西高校については、確かな語学力とグローバルな視野を持った人材の育成を図るため、国際科を設置する。
- ・ 伯方分校、大三島分校については、両校を統合して、「しまなみ海洋高校（仮称）」とする。同校は総合学科とし、進学実現とそれぞれの島の特徴を生かした学びの推進の両立を図るため、文理探究、総合進学、マリンビジネス、島の農業系列を設置する。校地については、キャンパス制を導入し、引き続き、両校地を活用する。

同校は、適正規模を下回るが、島しょ部の学校であることから、魅力化推進校の基準を適用する。

- ・ 弓削高校については、適正規模を下回っているが、1町に1校の学校であることから、魅力化推進校の基準を適用する。
- ・ 今治東中等教育学校については、全国レベルで活躍する運動部を複数持つ特徴を生かし、後期課程にスポーツコースを設置して、更なる魅力化を図る。



学校名	学科	コース ・系列	R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
			学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員
今治西	普通		8	320	7	280	7	280	6	240	6	240
	国際 (R8 設置)								1	40	1	40
伯方(分)	普通		2	60	2	60	2	60	しまなみ海洋へ統合			
今治南	普通		5	200	5	200	4	160	4	160	4	160
	農業		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
今治北	普通		5	200	5	200	5	200	5	200	4	160
	商業		2	80	2	80	2	80	2	80	2	80
大三島(分)	普通		1	40	1	40	1	40	しまなみ海洋へ統合			
今治工業	工業		5	200	5	200	5	200	5	200	5	200
弓削 (魅力)	普通		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
しまなみ海洋 (R8 設置 魅力)	伯方	総合							2	80	2	80
	大三島											
地区計			30	1,180	29	1,140	28	1,100	27	1,080	26	1,040
今治東中等	普通	普通 スポーツ (R8 設置)	4	140	4	140	4	140	4	140	4	140

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校。

※学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。

※統合校名、設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

## ○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、学級減を検討する。

## (5) 松山・伊予・上浮穴地区

### ○ 現状と課題

全日制課程の県立高等学校は 13 校（うち分校 2 校）設置されており、その内訳は普通科単独校が 6 校、専門学科単独校が 4 校、総合学科単独校が 1 校、併置校が 2 校となっている。過去 5 年間の平均志願倍率は 0.99 倍であり、県下では最も高くなっているが、学校・学科によっては、大幅な定員割れの状態が続いている。

また、中等教育学校が 1 校設置されており、高い志願倍率を維持している。

### ○ 前期計画の内容

令和 9 年度までの生徒数については、大きな変動はないが、定員割れが見られる学校・学科もあることから、適度な競争倍率を維持するため、1 学級の減を行う。

- ・ 北条高校については、多様な生徒を対象に、一人一人に応じた自由で柔軟な学びを提供し、未来につながる進路を実現できる、新しい形の学校とするため、全日制課程を改編し、昼間二部定時制課程及び通信制課程を併置した、「愛媛風早高校（仮称）」を設置する。

同校には、授業配信拠点としての機能も整備する。（※学校の詳細については、「(9) 定時制・通信制」を参照）

- ・ 中島分校については、適正規模を下回っているが、島しょ部の学校であることから、魅力化推進校の基準を適用する。
- ・ 伊予高校については、既存の普通科芸術クリエーションコースを拡充するとともに、砥部分校と統合しデザイン科を設置することにより、芸術教育の中核校として充実を図る。また、情報の活用と発信を重視する人材の育成を目指した「理数情報科」を新たに設置し、学科横断的学習を実施することで、アートとサイエンスを融合した新しい教育を実践する。
- ・ 東温高校については、生徒の個性を生かした主体的な教育を一層推進するため、多様な類型を備えている普通科と商業科のこれまでの成果を踏まえ、進学型の総合学科に改編し、文理探究、社会共創、スポーツ、情報マネジメントなどの系列を設置して、特色化を図る。
- ・ 上浮穴高校については、適正規模を下回っているが、1 町に 1 校の学校であることから、魅力化推進校の基準を適用する。
- ・ 松山西中等教育学校については、後期課程に国際コースを設置して、グローバル人材の育成を図る。

学校名	学科	コース・系列	R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
			学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員
北条	総合		3	120	3	120	3	120	愛媛風早に改編			
松山東	普通		9	360	9	360	9	360	9	360	9	360
松山南	普通		8	320	8	320	8	320	8	320	8	320
	理数		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
砥部(分)	工業 (デザイン)		1	40	1	40	1	40	伊予と統合			
松山北	普通		9	360	9	360	9	360	9	360	9	360
中島(分) (魅力)	普通		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
松山中央	普通		9	360	9	360	9	360	9	360	9	360
松山工業	工業		8	320	8	320	8	320	8	320	8	320
松山商業	商業		9	360	9	360	9	360	9	360	9	360
東温	普通		6	240	6	240	6	240	総合学科に改編			
	商業		2	80	2	80	2	80				
	総合 (R8 設置)	文理探究 英語理解 社会共創 スポーツ 医療福祉 生活科学 情報マネジメント							9	360	9	360
上浮穴 (魅力)	普通		1	30	1	30	1	30	1	30	1	30
	農業		1	30	1	30	1	30	1	30	1	30
伊予農業	農業		6	240	6	240	6	240	6	240	6	240
伊予	普通	普通 芸術クリエーション 教員養成 (R8 設置)	5	200	5	200	5	200	5	200	5	200
	理数情報 (R8 設置)								1	40	1	40
	工業 (デザイン) (R8 設置)								1	40	1	40
地区計			7 9	3, 140	7 9	3, 140	7 9	3, 140	7 8	3, 100	7 8	3, 100

松山西中等	普通	普通 国際 (R8 設置)	4	160	4	160	4	160	4	160	4	160
-------	----	---------------------	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校。

※学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。

※統合校名、設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

## ○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、学級減を検討する。

## (6) 大洲・喜多地区

### ○ 現状と課題

全日制課程の県立高等学校は5校（うち分校1校）設置されており、その内訳は普通科単独校が3校、専門学科単独校が1校、併置校が1校となっている。過去5年間の平均志願倍率は0.78倍であり、多くの学校において、定員割れの状態が続いている。

### ○ 前期計画の内容

令和9年度までの生徒数については、大きな変動はないが、定員割れの状態を改善し、適度な競争倍率を維持するため、1学級の減を行う。

- ・ 小田分校については、適正規模を下回っているが、全国募集実施校として、地域から学校存続のために必要な支援が得られていることから、魅力化推進校の基準を適用する。
- ・ 大洲農業高校については、適正規模を下回っていることから、大洲高校と統合する。大洲高校には、普通科、商業科及び農業科を設置して、学科横断的学習を実施する。校地については、大洲高校を主として活用するが、農業の実習等では、大洲農業高校の農場や校舎を活用する。
- ・ 長浜高校については、全国募集実施校として、地域から学校存続のために必要な支援が得られていることから、魅力化推進校の基準を適用する。

学校名	学科	R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
		学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員
大洲	普通	4	160	3	120	3	120	3	120	3	120
	商業	1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
	農業 (R7 設置)					2	80	2	80	2	80
大洲農業	農業	2	80	2	80	大洲と統合					
長浜 (魅力)	普通	2	60	2	60	2	60	2	60	2	60
内子	普通	3	120	3	120	3	120	3	120	3	120
小田(分) (魅力)	普通	2	60	2	60	2	60	2	60	2	60
地区計		1 4	520	1 3	480	1 3	480	1 3	480	1 3	480

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校。

※学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。

※統合校名、設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

## ○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、地区内での統合等により、学校数を4校から3校にすることを検討する。

## (7) 八西・西予地区

### ○ 現状と課題

全日制課程の県立高等学校は7校（うち分校1校）設置されており、その内訳は普通科単独校が2校、専門学科単独校が1校、総合学科単独校が1校、併置校が3校となっている。過去5年間の平均志願倍率は0.72倍で、県下では最も低くなっており、多くの学校において、定員割れの状態が続いている。

### ○ 前期計画の内容

令和9年度までの生徒数については、定員割れとなっている現状から更に1割程度減少することから、志願倍率の適正化を図るため、4学級の減を行う。

- ・ 八幡浜高校、八幡浜工業高校、川之石高校については、それぞれの学科の特徴を生かした学びを充実させるため、1校に統合し「八幡浜高校（仮称）」とする。同校には、従来の普通科、商業科に、工業科及び総合学科の農業系列、福祉系列を設置して、普通系学科と多彩な職業系学科が融合する総合的な学科横断的学習を実施する。校地については、八幡浜高校を主として活用するが、工業の実習等では八幡浜工業高校の工業実習施設や校舎を、農業の実習等では川之石高校の農場や校舎を活用する。
- ・ 三崎高校については、適正規模を下回っているが、1町に1校の学校であることから、魅力化推進校の基準を適用する。
- ・ 宇和高校については、生徒の個性を生かした主体的な教育を一層推進するため、普通科と農業科のこれまでの成果を踏まえ、総合学科に改編し、文理探究、情報マネジメント、生物工学などの系列を設置して、特色化を図る。
- ・ 野村高校については、令和6年度から2学級となり適正規模を下回るが、全国募集実施校として、地域から学校存続のために必要な支援が得られていることから、魅力化推進校の基準を適用する。

学校名	学科	コース ・系列	R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
			学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員
八幡浜	普通		4	160	4	160	4	160	4	160	4	160
	商業		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
	工業 (R8 設置)								1	40	1	40
	総合 (R8 設置)	農業 福祉							1	40	1	40
八幡浜工業	工業		2	80	2	80	2	80	八幡浜と統合			
川之石	総合		3	120	3	120	3	120	八幡浜と統合			
三崎 (魅力)	普通		2	60	2	60	2	60	2	60	2	60
宇和	普通		2	80	2	80	2	80	総合学科に改編			
	農業		1	40	1	40	1	40	総合学科に改編			
	総合 (R8 設置)	文理探究 情報マネジメント スポーツ 生物工学							3	120	3	120
野村 (R6魅力)	普通		2	80	1	40	1	40	1	40	1	40
	農業		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
地区計			1 8	700	1 7	660	1 7	660	1 4	540	1 4	540

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校。

※学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。

※統合校名、設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

## ○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、地区内での統合等により、学校数を4校から3校にすることを検討する。

## (8) 宇和島・南宇和地区

### ○ 現状と課題

全日制課程の県立高等学校は7校（うち分校2校）設置されており、その内訳は普通科単独校が1校、専門学科単独校が1校、併置校が5校となっている。過去5年間の平均志願倍率は0.74倍であり、多くの学校において、定員割れの状態が続いている。

また、中等教育学校が1校設置されており、定員割れの状態が続いている。

### ○ 前期計画の内容

令和9年度までの生徒数については、定員割れとなっている現状から更に2割程度減少することから、志願倍率の適正化を図るため、6学級の減を行う。

- ・ 津島分校については、適正規模を下回っていることから、宇和島東高校と統合する。
- ・ 三間分校については、適正規模を下回っていることから、北宇和高校と統合する。北宇和高校については、令和9年度から2学級となり適正規模を下回るが、1町に1校の学校であることから、魅力化推進校の基準を適用する。
- ・ 宇和島南中等教育学校については、今後とも地域の児童・生徒数が著しく減少していくことが見込まれる中で、地域から「前期課程の廃止」を求める意見が強く出されたことなどから、令和6年度に前期課程を募集停止とし、後期課程への進級者がいなくなる令和9年度において、新たに「宇和島南高校（仮称）」を設置する。同校は総合学科とし、文理探究、国際、情報、スポーツの各系列を設置するとともに、志願者数の減少が著しい宇和島水産高校を同校と統合し、新たに水産科を設置する。

校地については、宇和島南中等教育学校を主として活用するが、水産の実習等では、宇和島水産高校の水産実習施設や校舎を活用する。



学校名	学科	コース ・系列	R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
			学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員
宇和島東	理・普		4	160	4	160	4	160	4	160	4	160
	商業		3	120	2	80	2	80	2	80	2	80
津島(分)	普通		2	60	2	60	宇和島東と統合					
宇和島南 (R9 設置)	総合	文理探究 国際 情報 スポーツ									3	120
	水産										2	60
宇和島水産	水産		3	105	3	105	3	90	3	90	宇和島南と統合	
吉田	普通		2	80	2	80	2	80	2	80	1	40
	工業		2	80	2	80	2	80	2	80	2	80
北宇和 (R9 魅力)	普通		2	80	2	80	2	80	2	80	1	40
	農業		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
三間(分)	普通		1	30	1	30	北宇和と統合					
	農業		1	30	1	30						
南宇和	普通		3	120	3	120	2	80	2	80	2	80
	農業		1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
地区計			2 5	945	2 4	905	1 9	730	1 9	730	1 9	740

宇和島南中等	普通		4	140	前期募集停止							
--------	----	--	---	-----	--------	--	--	--	--	--	--	--

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校。

※学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。

※統合校名、設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

## ○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、地区内での統合等により、学校数を5校から4校にすることを検討する。

## (9) 定時制・通信制

### ○ 現状と課題

定時制課程の県立高等学校は 10 校（昼間定時制 1 校、夜間定時制 9 校）設置されており、その内訳は普通科が 8 校、専門学科が 2 校となっている。過去 5 年間の平均志願倍率は 0.19 倍であり、全ての学校において、定員割れの状態が続いている。

また、通信制課程の県立高等学校は 1 校設置されており、普通科となっている。

### ○ 前期計画の内容

- ・ 北条高校については、不登校を経験した生徒や働きながら学びたい生徒、自分のペースで学びたい生徒など、多様な生徒を対象に、一人一人に応じた自由で柔軟な学びを提供し、未来につながる進路を実現できる、新しい形の学校とするため、全日制課程を改編し、昼間の午前と午後を選んで学べる昼間二部定時制課程及び通信制課程を併置した、「愛媛風早高校（仮称）」を設置する。

同校には、授業配信拠点としてのセンター機能を整備し、県内の小規模校の教育環境の強化を図る。校地としては、北条高校を活用することで、松山市などの中予地域からだけでなく、今治市などの東予地域からの通学も可能とする。

- ・ 松山商業高校については、志願者数の減少が著しいことから、松山南高校に統合する。同校には、普通科及び商業科を設置する。
- ・ 松山工業高校については、志願者数の減少が著しいことから、工業科の 2 学科を集約して、1 学科とする。
- ・ 肱川分校及び松山東高校の通信制課程については、「愛媛風早高校（仮称）」の設置に伴い、募集停止とする。

(定時制)

学校名	学科	R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
		学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員	学級	定員
川之江	普通	1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
新居浜西	普通	1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
西条	普通	1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
今治西	普通	1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
愛媛風早 (R8 設置)	総合(昼間)							2	80	2	80
松山南	普通	1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
	商業 (R8 設置)							1	40	1	40
松山工業	工業	2	80	2	80	2	80	1	40	1	40
松山商業	商業	1	40	1	40	1	40	松山南と統合			
肱川(分)	普通(昼間)	1	40	1	40	1	40	愛媛風早と統合			
八幡浜	普通	1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
宇和島東	普通	1	40	1	40	1	40	1	40	1	40
定時制計		1 1	440	1 1	440	1 1	440	1 1	440	1 1	440

(通信制)

松山東	普通		300		300		300	愛媛風早と統合			
愛媛風早 (R8 設置)	普通								300		300

※学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。

※統合校名、設置学科・コース等については、準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

## ○ 後期計画の方向性

### 【愛媛風早高校（仮称）以外】

入学生数の減少が継続する場合は、募集停止を検討する。

### 【愛媛風早高校（仮称）】

入学生数の状況により、定員の増減を検討する。

県立学校振興計画総括表（前期計画）

○全日制

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
四国中央					
新居浜		1学級削減	新居浜東(普通6 →普通5・健康スポーツ1)		2学級削減
西条				小松・東予・丹原 →周桑 (普通3・理数情報1) →西条産業科学 (農業1・工業2・商業2・ 家庭1) 1学級削減	
今治 越智		1学級削減	1学級削減	今治西(普通7 →普通6・国際1) 伯方(分)・大三島(分) →しまなみ海洋(総合2) 1学級削減	1学級削減
松山 伊予 上浮穴				北条→愛媛風早(定・通) 東温(普通6・商業2 →総合9) 伊予・砥部(分)→伊予 (普通5・理数情報1・ 工業1) 1学級削減	
大洲 喜多		1学級削減	大洲・大洲農業→大洲 (普通3・農業2・商業1)		
八西 西予		1学級削減		八幡浜・八幡浜工業・川之石 →八幡浜 (普通4・工業1・商業1・ 総合1) 宇和(普通2・農業1 →総合3) 3学級削減	
宇和島 南宇和		宇和島南中等※募集停止 1学級削減	宇和島東・津島(分) →宇和島東 (理普4・商業2) 北宇和・三間(分) →北宇和 (普通2・農業1) 5学級削減		宇和島南中等・宇和島水産 →宇和島南 (総合3・水産2)

○定時制・通信制

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
				北条(全)→愛媛風早 (昼間定時制総合2・ 通信制普通) 松山南・松山商業 →松山南 (普通1・商業1) 松山工業(工業2→1) 肱川(分)※募集停止 松山東(通)※募集停止	

再編整備基準

項 目		内 容
適正規模		1 学年 3 学級～8 学級を基本とする。
地域への配慮		<p>次の①または②に該当する県立高校等について、市町や地域から学校の存続のために必要と思われる支援が得られる県立高校等を、1 市町につき 1 校に限り、特別の統廃合基準を適用する「魅力化推進校」に認定できる。</p> <p>① 同一市町内にある県立高校等が 1 校で、その 1 校が適正規模を下回る。</p> <p>② 同一市町内にある県立高校等が複数で、そのうち 1 校以上が適正規模を下回り、その県立高校等が、次のいずれかに該当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島しょ部にある県立高校等</li> <li>・ 教育委員会が特別に認める県立高校等</li> </ul>
統 廃 合 基 準	3 学級以上の学校の募集停止	入学生が80人以下の状況が3年続き、その後も増える見込みがない場合は、募集停止を行う。 ただし、魅力化推進校として認定する場合は除く。
	魅力化推進校の募集停止	入学生が30人以下の状況が3年続き、その後も増える見込みがない場合は、募集停止を行う。 (特例) 離島の通学環境を考慮し、弓削高等学校及び松山北高等学校中島分校については、入学生が20人未満の状況が3年続き、その後も増える見込みがない場合は、募集停止を行う。
	同一地域内における統合等	適正規模を満たしている学校についても、教育環境の向上が期待できる場合は、統合等を検討する。
	市町立への移管	関係市町から、市町立への移管の申し出があった場合は協議する。
	定時制課程の募集停止	入学生数等を踏まえ、個別に検討する。
キャンパス制		統合等を行う際には、一つの校地にまとめることのメリットとデメリットを勘案し、メリットを上回るデメリットがある場合は、複数の校地を活用するキャンパス制を導入する。
入 学 定 員	競争倍率	適度な競争倍率を維持できる定員とする。
	通学区域(普通科)	当面、「通学区域：東・中・南予、区域外の入学者割合：5%」を維持する。
	全国募集	全国募集に係る区域外の入学者割合については、区域内の中学生数等に配慮しながら、拡大の方向で検討する。